

低温に対応した稲作管理の徹底について

平成15年7月14日

やまがたこだわり安心米推進運動本部

山形県では6月下旬から気温の低い日が続いている。特に7月7日～10日かけては最高気温が低く、平均気温が20℃を下回っている。この低温は今週末まで継続すると予想されるので、今後の気象情報に留意し、気象変動に対応した稲作管理の徹底を図る。

1 出穂予測

農業試験場の幼穂調査（7月10日）では、出穂期は平年並～やや遅いと予測される。

表 幼穂の発育からみた予想出穂期

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期
はえぬき	農業試験場	8月5日	8月4日
	農業試験場庄内支場	8月5日	8月6日
あきたこまち	農業試験場	8月4日	8月2日
	中山間地農業研究部	8月3日	8月2日
ササニシキ	庄内支場	8月5日	8月5日

2 低温に対応した水管理等

- (1)早生品種では幼穂形成期を迎えており、冷害常発地では、幼穂形成期（出穂前25日頃）に前歴深水を実施して障害の回避に努める。
- (2)気象の推移に十分注意し、減数分裂期（出穂前15日頃）に低温が2～3日続く場合は、障害型冷害を回避するために深水管理を実施する。
- (3)窒素肥料の多施用は不穂を助長するので、特に冷害常発地では生育診断に基づいた適正な穂肥を実施する。

3 葉いもち防除の徹底

- (1)6月中旬以降いもち病に感染しやすい日がみられ、日照不足も続いているため、ほ場の見回りを行って葉いもちの発生状況を的確に把握し、早期発見早期防除に努める。特に移植時に箱施用を実施したほ場では発生動向に十分注意する。

低温と日照不足に関する山形県気象情報 第1号

平成15年7月11日14時40分 山形地方気象台発表

山形県では、気温が低く日照時間の少ない状態が続いています。今後1週間は、中頃を中心に最低気温が17度以下となり、天気がぐずつく時期もある見込みですので、農作物の管理には注意して下さい。

山形県では、6月24日頃から梅雨前線やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で天気がぐずつき、最高気温が平年より2~3度低く、また、日照時間も平年の60%前後と少ない状態が続いていました。今後1週間も、中頃を中心に大陸から寒気が南下して最低気温が17度以下となり、梅雨前線や低気圧の影響で天気がぐずつく時期もある見込みです。農作物の管理に十分注意して下さい。

なお、6月24日から7月10日までの県内の主な地点の日照時間（平年比）と最高気温（平年差）は次の通りです。（アメダスによる速報値）

	日照時間	平年比	最高気温	平年差
山形	43.0時間	(65%)	23.9度	(-2.1)
酒田	47.4	(63)	22.9度	(-1.7)
新庄	38.8	(62)	21.8度	(-2.6)
米沢	34.7	(73)	23.6度	(-1.3)